

## 眉間には

### 連作和歌 百首歌集

2009/5/15-7/21

8501	腕を組み眉間には皺かたはらに眠るあなたは夢の中らし	たまこ	5月15日 06時05分
8502	起きぬけの顔にも耐へねばなりませぬ幻ならば消えもしやうに	真奈	5月15日 13時41分
8503	絶え志のぶ 恋かと想う 真ぼろしを 心の色に ふと映すかな	真	5月15日 15時52分
8504	堪え忍ぶことのみ多き我が恋はいつも煙の消えるが如し	弁慶	5月15日 18時07分
8505	振り向かぬと心封せし恋ゆえに君よ夢にも出ずることなかれ	ミヌ	5月15日 20時39分
8506	日の光弾きつつ谷を涉りゆく黄の蝶ひとつ 振りかへるなよ	たまこ	5月15日 23時40分
8507	しばらくと逢へば懐かし友ありてやさしきみ手のはからひのまま	真奈	5月16日 09時42分
8508	連衆の上手からんとす一句ごときみが手垂れに巻く半歌仙	重陽	5月16日 13時34分
8509	山桜の上を連なり雁が飛ぶ江戸の屏風の茜の空を	たまこ	5月17日 06時28分
8510	群衆が謡い踊りし映画見つつひとりチャイ飲むインド料理店	ミヌ	5月17日 14時26分
8511	友いとし ゆび先にこめいざなはん 真こと奈らこそ 踊る道行	真	5月18日 01時26分
8512	人災か天災なるか憂きことの頻りなるかな青きこの星	重陽	5月18日 05時29分
8513	さくらんぼを今年もきらきら熟らしつつもう壊れさうなわたしの地球	たまこ	5月18日 06時35分
8514	「桜んぼの実る頃」歌ふコラ・ヴォケール パリ・コミュニケーションの歌にしてあたたか	真奈	5月18日 22時02分
8515	パリ・コミュニケーション惚れたこともあったけど知れば単なる殺人事件	弁慶	5月19日 06時04分
8516	あこがれはあこがれのままにしてをかん虹を仰ぐほどの間隔をあげ	たまこ	5月19日 22時42分
8517	んぼヴォと 音を耳から 食べてみる なんと心に 虹立つ気分	真	5月19日 23時51分

8518	んヴオーの霧笛に思う故郷の淡いミルクのような日光	重陽	5月20日 08時58分
8519	んぼヴォーは優しい素敵な鼻音でしょお登紀さんでもかなはないきっと	真奈	5月20日 10時43分
8520	ガレ描くガラスの絵模様美しく美術館中アールヌーボー	弁慶	5月20日 22時51分
8521	ジャカラランダの花散る音を聞きあたりランプの灯影に二人黙して	たまこ	5月21日 07時32分
8522	風わたる大草原にまどろめばジンギスハーンの馬駆る音きこゆ	ミヌ	5月21日 12時26分
8523	モンゴルに植樹に通う友がいて語らぬ彼のこころ清けき	重陽	5月22日 06時38分
8524	今もなを在処分からぬ墓の跡ジンギス汗は何処に眠るや：	弁慶	5月22日 11時06分
8525	草原に波をおこして吹き抜きぬけし一陣の風とわれを思へよ	たまこ	5月22日 23時04分
8526	一陣の風吹くを待ち翔びたたんと夏のころもの透きとほる翅	真奈	5月23日 12時12分
8527	身を飛ばし風に従いなに行き 香りて知らせ あすのオークス	真	5月23日 17時24分
8528	明けやらぬ淡き潮目の海原を光りを散らしあごが飛び去る	重陽	5月23日 19時50分
8529	きびきびと若者のごとボール追う白き帽子に老鷲の声	白馬	5月24日 16時32分
8530	あの夢はセンターフライキャッチしてホームベースへ軽く返球	弁慶	5月24日 19時54分
8531	過ぎ行きし煌めく夏の球宴に響く歓声落つる赤涙	光源氏	5月24日 23時44分
8532	東向くわが窓からの朝の日が勢いづきて日々に夏めく	重陽	5月25日 05時58分
8533	窓の下五月雨萩の花咲けり今年も春は過ぎにけるかな	弁慶	5月25日 20時34分
8534	紫の都忘れの花咲きぬ雨は降るふる個展を終えて	れん	5月25日 22時13分
8535	中尊寺に蝉の鳴きぬし光堂の裏には都忘れ咲きぬし	たまこ	5月26日 07時22分
8536	サフラワー紅花栄う鮮やかに未摘花ともいいてをかし	ミヌ	5月26日 11時12分
8537	隅田川言問通り花の店都忘れの咲きにけるかな	弁慶	5月26日 11時16分
8538	国々の言葉交わさる仲見世をゆっくり歩く宵のひとつき	重陽	5月26日 17時59分

8539	宵闇にそぞろ移ろふ残り香に思ひをたくす命ひとひら	光源氏	5月26日 22時07分
8540	たまご色に灯の点りたる初夏の街通り過ぐひとみな美しき	真奈	5月26日 22時50分
8541	聖五月水惑星の水汚し核実験のなされたること	たまこ	5月27日 15時19分
8542	梅雨近しわが惑星の就中瑞穂の国の幸忘れめや	重陽	5月29日 18時17分
8543	田の神も坐して笑まふや幸くあれと弓状列島不戦の誓ひ	真奈	5月29日 21時38分
8544	夕焼けや青田に映る富士の影昔も今も姿変わらず	弁慶	5月30日 11時49分
8545	夕暮れの棚田にうつる月明かり郡上の夏に風ふくませて	光源氏	5月31日 09時42分
8546	うずうずと今年も正に五月尽去年(こぞ)のメモには冷たき雨と	重陽	5月31日 18時09分
8547	電柱の取り換へ作業する人の声澁刺と五月尽日	たまこ	5月31日 23時42分
8548	鈴鳴らしけたたましくも時は過ぎ紫陽花ゆれて梅雨入りまじか	くりおね	6月6日 09時22分
8549	七色に染まりし紫陽花移り気も美しさゆえの花言葉かな	ミヌ	6月9日 01時04分
8550	「ラーメン・ラ王」一人すすれば昼の雨咲きそむ紫陽花の花を濡らして	たまこ	6月9日 13時20分
8551	アジサイというティールーム"紫陽花はまだ咲ききれぬ青き花房	重陽	6月9日 18時07分
8552	ここが頬ここが額かと思ひつつお多福てふ名の紫陽花眺む	雛菊	6月9日 19時18分
8553	雨に濡れし紫陽花ひと際美しく古き都の勅願の寺	弁慶	6月9日 21時32分
8554	しずしずと降る雨まとい七変化紫陽花咲きて恋失ひけり	ミヌ	6月9日 22時13分
8555	旅の荷は小さくまとめて濃紫陽花おもふ心は毬となり翔ぶ	真奈	6月9日 23時25分
8556	紫陽花は日に増し色に染まりきてけさ関東もついで宣言	重陽	6月10日 13時37分
8557	梅雨の雨流るる窓に昼を点す灯りがうつる 遠い鐘の音	たまこ	6月10日 18時31分
8558	翔ぶ毬を紫にじむまるまるを紬なおすのゆるされるかな	真	6月10日 19時21分
8559	立ちかへる京師をのぞむ山の端に月は暮れなみ露も知らねじ	光源氏	6月11日 08時14分

8560	青梅雨の古き都の段かずら一の鳥居を望みてぞゆく	重陽	6月11日 09時05分
8561	堤防はこんもり茂り川速し連なる山の深みをまして	くりおね	6月13日 07時31分
8562	深山木に風そうそうと吹きにけり君待つ宿のしのぶまもなく	光源氏	6月13日 09時44分
8563	夜の更けてパッサカリアは転調すいねましものを踊らむとやと	真奈	6月13日 23時10分
8564	ドン・コザックの音とリズムにうつつかと驚いたのは半世紀前	重陽	6月14日 12時00分
8565	夜更けには 薔薇もちゆかん ニジンスキー 窓から飛んで さらいましょうぞ	真	6月15日 00時25分
8566	朝風に流るる綿毛あのやうなわたしの望みかもしれなくて	たまこ	6月15日 06時17分
8567	朝風の潮目流るる遠近に“なぶら”あるらし鳥が群れをり	重陽	6月15日 12時27分
8568	なぶらとは鯉の群れと知った日のランチの後は青のソーダ	雛菊	6月15日 12時59分
8569	ヨットハーバー・海賊ランチ・積乱雲あのままなれどあなたがない	たまこ	6月18日 00時29分
8570	波高し次へと進むエネルギー太平洋のヨットの舳先	くりおね	6月21日 07時51分
8571	雨あとの真水に色を失いし磯は次なる潮騒を待つ	重陽	6月22日 09時13分
8572	月星と台車交換待ちいしは二連浩特(アルリエンハオト)国境の駅	ミヌ	6月25日 09時49分
8573	モンゴルへ不毛の土地へ植樹へと彼を駆るのは故郷ならむ	重陽	6月25日 16時21分
8574	盲学校建設に力貸すと言ひ全盲の友がモンゴルへ発つ	たまこ	6月25日 20時48分
8575	双瘤の駱駝に乗りし王子様美姫を求めて月の砂漠を	弁慶	6月28日 07時14分
8576	隠れ無き心を唄にたくしたい謎かけなのかはた暗号か	真	6月28日 23時24分
8577	パスワード何度入れても間違えて私の中に入れぬわたし	ぼぼな	6月30日 06時15分
8578	パスワード忘れるたびに思い出す忘却能力に優れし我を	弁慶	6月30日 20時47分
8579	さよならと別れの度に忘れ来しことの数多が闇に木霊す	やんま	7月3日 08時22分
8580	「悲しみの雫」と誰かが詠みし茄子ベランダの鉢に二雫が育つ	たまこ	7月4日 01時08分

8581	茄子三つ持って行けよとわが友は小さき畑を耕しにけり	弁慶	7月4日 06時45分
8582	畑作で情理尽くせし我が叔母の賑やかな顔今は偲びし	光源氏	7月4日 23時29分
8583	ジャガイモはソ連を崩壊させしとか貧者のパンが歴史動かす	真奈	7月5日 00時26分
8584	裏山の兵舎の跡のカボチャの実青を啜りしあの敗戦の夏	重陽	7月6日 05時27分
8585	這う蔓を元に辿れば黄色なるカボチャの花の咲きにけるかな	弁慶	7月6日 22時44分
8586	欲しいのはジャックの豆の木 垂れ込める雲の上へと這い上りたい	たまこ	7月6日 23時39分
8587	梅雨雲の上は明るく忽ちに翼を焦がす夏の太陽	重陽	7月8日 06時57分
8588	国原は梅雨雲重く垂れこめて陰々滅々気の晴れぬ日々	弁慶	7月9日 10時24分
8589	町行かば祇園囃子の響きあり夏本番も近しと思ひぬ	ミヌ	7月9日 21時31分
8590	夏山の驟雨に打たれて喜べる林に立てりわれも木として	たまこ	7月10日 10時06分
8591	持てる物如何に少なくなりとても安けきこころ確かむる雨	白馬	7月10日 20時37分
8592	梅雨晴れ間糸引く雲の夕日影明日は晴れよ祈る夕暮れ	弁慶	7月10日 22時36分
8593	森をゆく小川も小径も茜色なに事も無きひと日の終はり	たまこ	7月12日 06時54分
8594	兆し来る老い感ずれば何事もなきがよしてふことば尊し	茉莉花	7月14日 01時02分
8595	茉莉花なる良き歌詠みの歌見れば梅雨晴れやかに明けるがごとし	弁慶	7月14日 01時26分
8596	幼にてもましてや壮もかにかくに老いてさながら楽しかりけり	重陽	7月15日 08時06分
8597	なにごととも無きに華やぐ街に出で五・六冊文庫ちょっと張りこむ	真奈	7月16日 07時25分
8598	文庫本ふと一冊を手を取れば書名懐かし「地獄の季節」	弁慶	7月16日 21時59分
8599	林立の本の間に坐りこみ清水を受ける水瓶となる	たまこ	7月17日 00時34分
8600	八月来ふと戦中の遠きこと防空壕に坐したる日々を	重陽	7月21日 08時32分